

失語症会話パートナーの活動状況

：養成講座修了生へのアンケート結果から

はじめに

- NPO法人和音では、失語症会話パートナーを2000年より毎年約30名ずつ養成してきた。
- 養成講座修了生(2007年10月現在)に対し、会話パートナーとしての活動状況に関する調査を行ったので、その結果を報告する。

— < 失語症会話パートナー > —

失語症者と会話のパートナーシップを分かち合いながら
コミュニケーションを図り、意思の疎通を援助する人

方法

- 養成講座修了後、和音からの連絡を希望した修了生146名に対し、郵送にて質問紙を発送し、返送された回答を集計した。(回収率49.3%)

< 質問内容 >

会話パートナーとしての活動先の有無

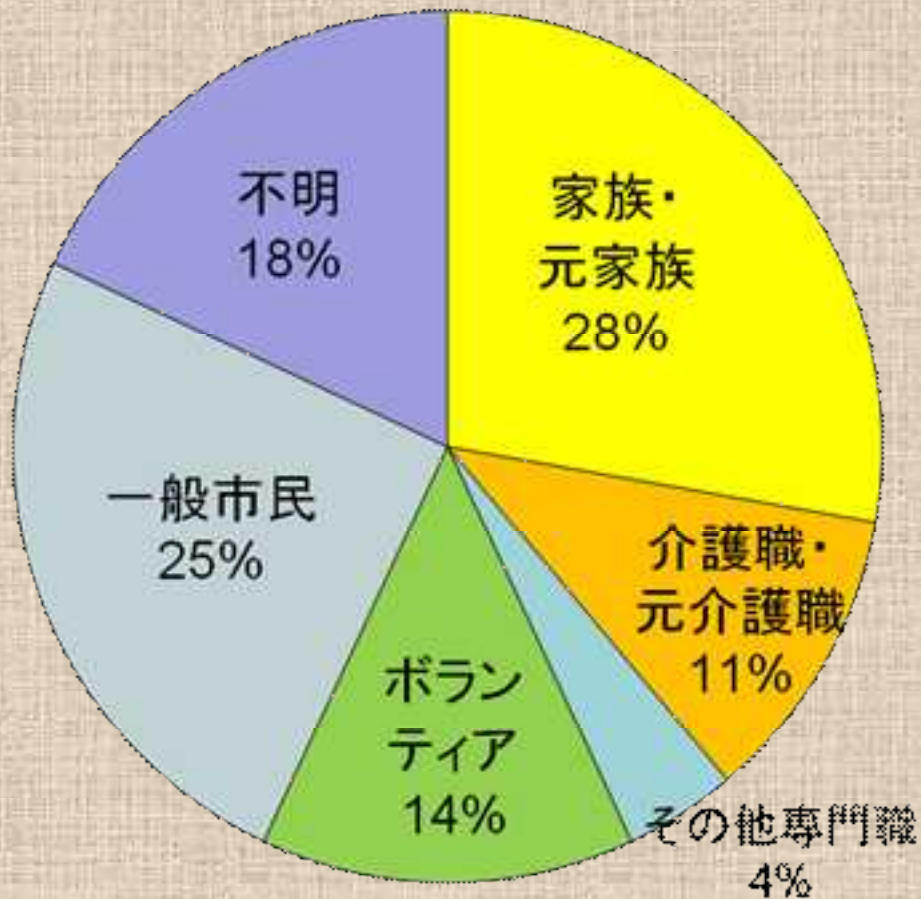
活動していない人の理由

今後希望する活動内容

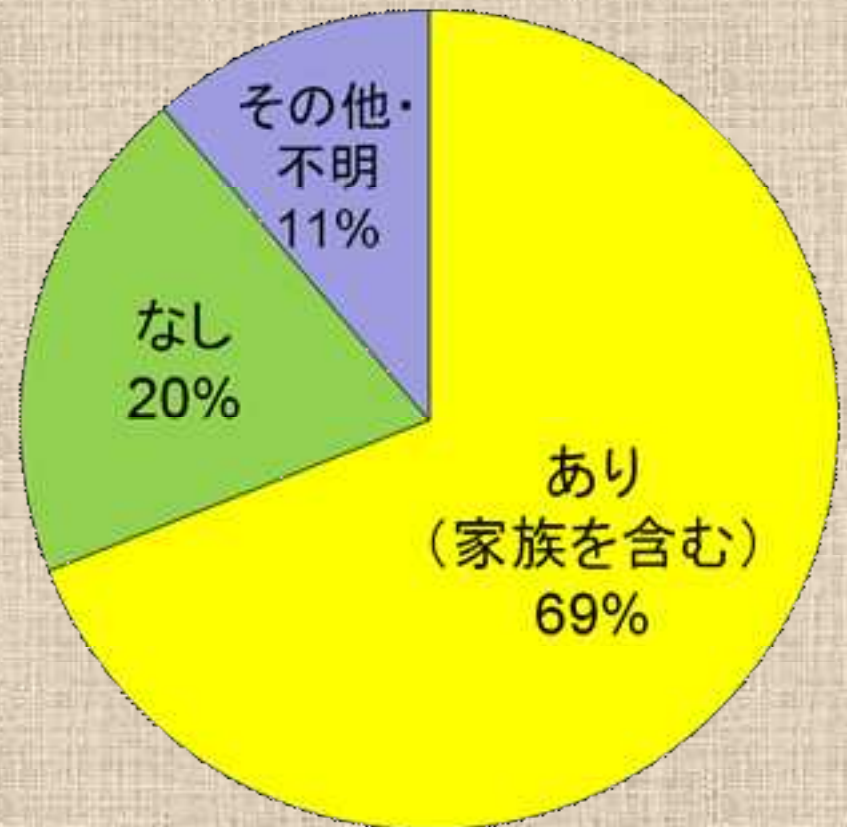
今回の調査において、「会話パートナーとしての活動」とは、家庭内や仕事上だけでなく、ボランティア活動としての失語症者との関わりと位置付けている。

アンケート回答者

回答者の属性

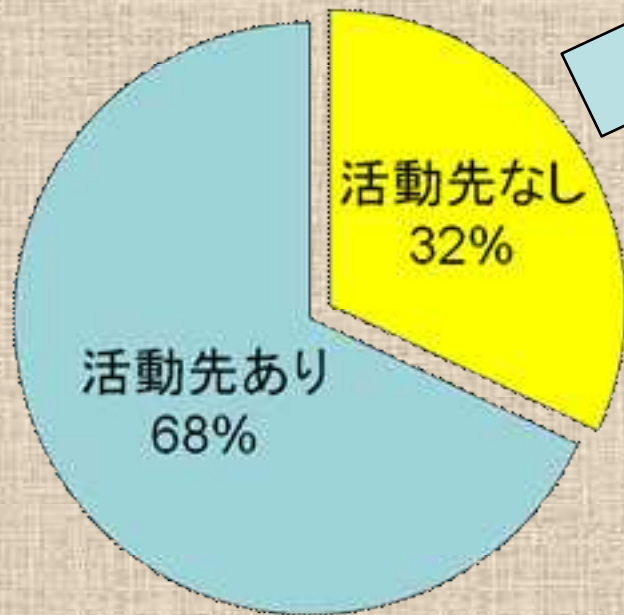


受講前に失語症者と接した経験の有無



結果

会話パートナーとしての
活動先の有無

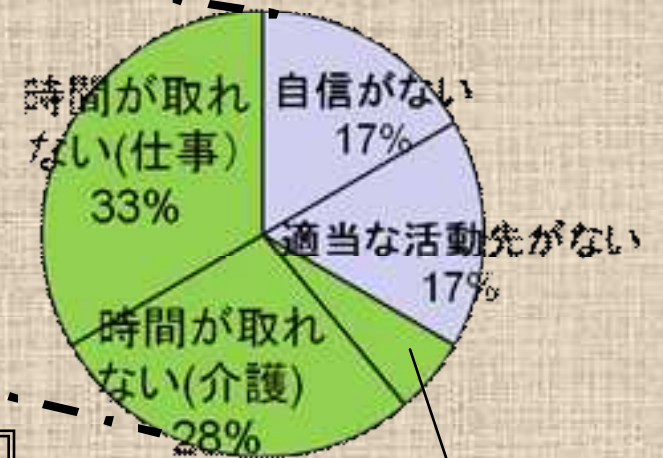


活動先なしの内訳



活動先がなく仕事での活用もしていない人のうち、64%が家族もしくは元家族であった。

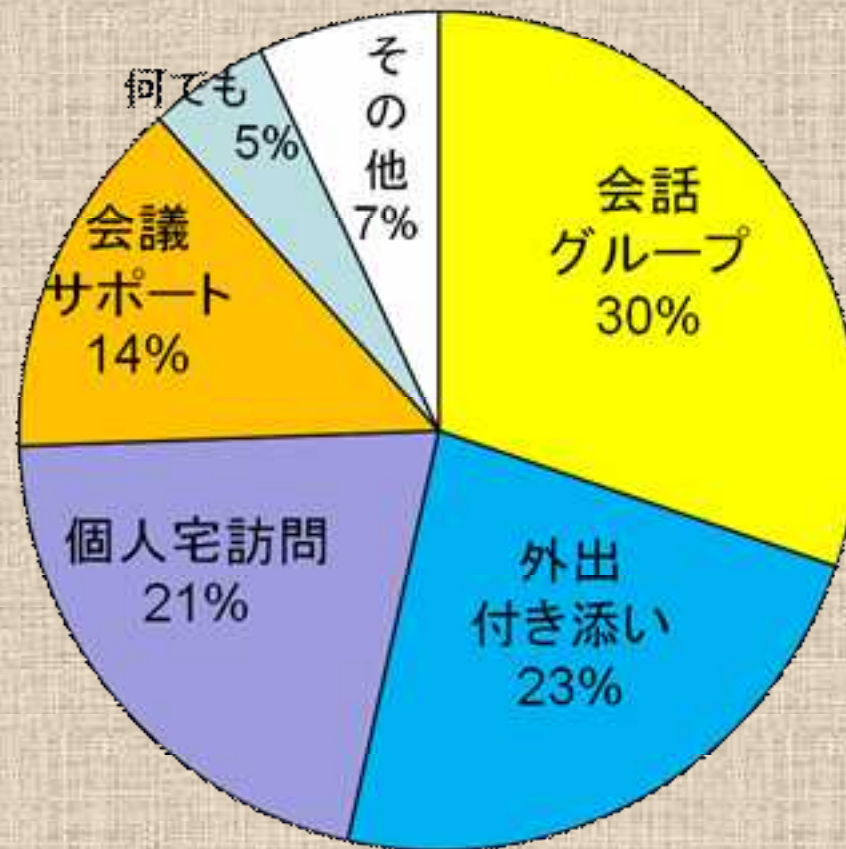
『活動先なし(その他)』
の内訳(複数回答)



時間が取れない(仕事・介護以外) 5%

結果

希望する活動内容(複数回答)



考察

- アンケート結果より、回答者の約7割が会話パートナーとして活動しており、活動先がない者の約8割が仕事や家族との関わりにおいて獲得した技術を生かしていた。



- 会話パートナー養成講座は一定の成果を上げていると考えられる。
- 今後、会話パートナーとして活動していない修了生が、より多くの失語症者を支援できるような活動が必要と考えられる。

考察

- 今後必要と思われる活動

- 1) フォローアップ講座の更なる充実

現在、修了生を対象としたフォローアップ講座を開催しているが、スキルアップだけではなく、精神面でのフォローも含め修了生が自信を持って活動できるよう総合的にサポートしていく必要がある。

- 2) 単発の活動の紹介

仕事や介護などで時間のない人には、単発の外出付き添いなどの依頼を紹介することで、活動に結びつけることができると考えられる。

考察

3) 活動先の開拓

結果 から、養成講座修了生の希望する活動内容は多様である。そこで、修了生の希望に合う活動内容や活動形態を紹介できるように、活動先を開拓していくことが必要と考えられる。

4) 会話パートナーの自立的活動に向けたSTの関与

会話パートナーとしての活動が定着するよう、STが継続的にサポートし、将来的には会話パートナーの自立的な組織作りを目指す必要があると思われる。

まとめ

- 養成講座修了生に対しアンケート調査を実施し、会話パートナーとして活動している者も多い反面、具体的な活動先を有していない者も少なくないという結果を得た。
- 養成講座修了後、会話パートナーとして活動していない者についても更なる働きかけを継続して行い、社会参加の場で孤立しがちな失語症者を支援する会話パートナーの活動が、認知され定着するよう活動していきたい。